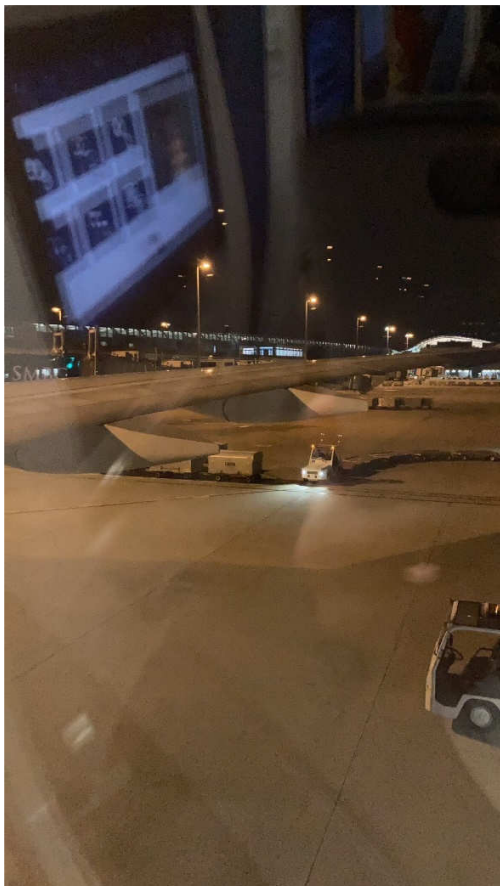


EMO 2023 ドイツ視察

2023.09.25

2023 年ドイツで開催された EMO 2023 に、弊社社員（営業部 1 名、製造部 1 名、技術部 1 名）3 名で視察に行っていました。その視察内容を簡単にご紹介させていただきます。弊社 HP に訪問された方に、少しでもドイツ国内、並びに EMO の雰囲気を感じ取っていただければと思います。

それでは早速出発から…。



出発は関西国際空港からドイツ、ミュンヘンへの直行便です。

航空会社はドイツ屈指のルフトハンザ。

日本時間 21:50 発で、ドイツ時間 5:10 着です。

時差 7 時間。機内では 14 時間滞在となります。

気流の影響などで帰りの便は 12 時間に短縮されるそうです。

今回はエコノミーでの機中泊。

長時間の機中泊を未経験な方はかなりの覚悟が必要です…。



機内サービスで、世界的知名度 No.1 のドイツビール、「ベックス」がいただけます。炭酸強めのラガービール。苦味はそこまで強くなく、ホップの香りが強い美味しいビールです。

訪問日：2023.09.17

訪問先：ミュンヘン（ドイツ博物館、市内視察）

訪問目的：博物館、市内視察



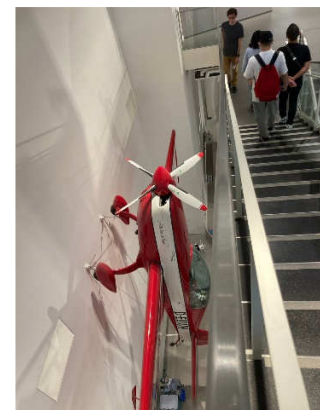
ドイツ博物館

機中泊から疲れが抜けぬまま、1 件目の訪問先「ドイツ博物館」へ。国内外のあらゆる展示物が存在し、全ての展示物を閲覧するには 1 ヶ月にかかるとのこと。工事中の箇所もあり、すべてを閲覧することはできなかったですが、それでもかなりの物量です。

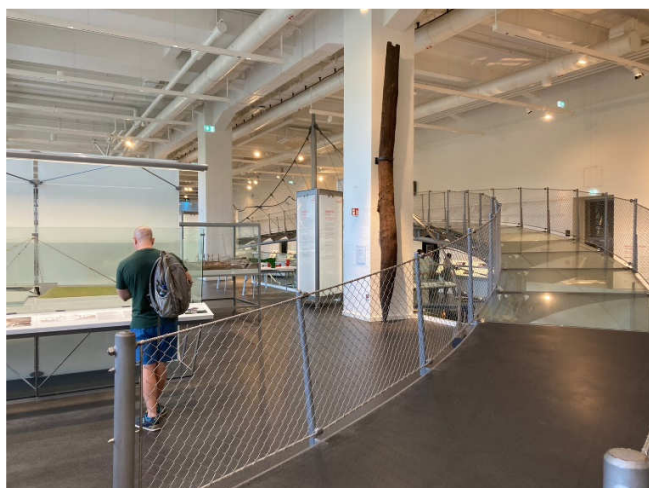
日本国内の博物館とは違い、順路等はありません。4 階から下へ下るもよし。1 階から上へあがるもよし。自由です。



飛行機のフロア。大きな飛行機である展示物を、吊る。壁に掛ける。といった展示方法については、日本の博物館ではなかなかお目にかかれないかと。



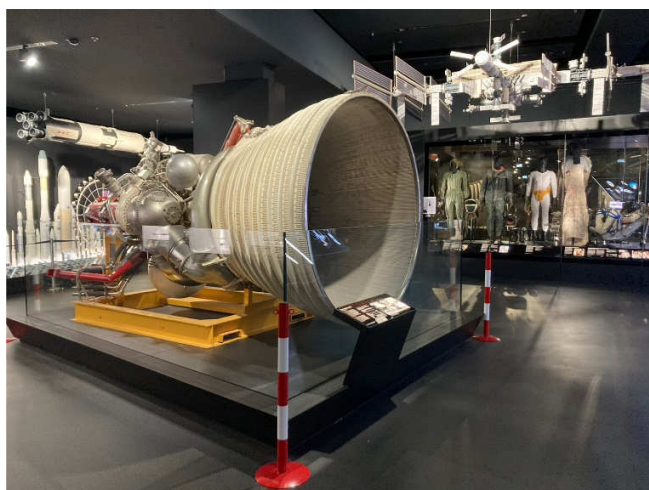
見学していると戦時中の飛行機も展示されていました。ナチスの「ハーケンクロイツ」のマークがついた戦闘機に関しては、マーク部分は映像で写されており、いつでも消せる仕様です。不快に思われる方々に対しての配慮なのか。（ドイツ人からしても、忌まわしき黒歴史との認識だそうです）



「橋」の展示物が置かれたエリア。模型で過去の橋を再現していました。日本の太鼓橋の模型も展示されていました。「橋」の構造が視覚的にわかりやすいように配慮されています。



こちらは「宇宙」をテーマにしたエリア。初めて月面着陸をした際の宇宙服や、「月の石」なども展示されていました。



上記写真は4階ぶち抜きでロケットを展示していました。さすがドイツ。





各エリアにはエリアごとの専門担当者が配置されており、何か不明な点や聞きたいことがあれば、遠慮なく質問できるそうです。左写真は専門の方のブースです。この博物館は、学校の課外活動などでも頻繁に使用されるそうです。学校からの生徒入場はもちろん無料だそうです。ちなみにドイツ国内での学費はすべて無料で、子供の教育に力を入れていることがうかがえます。



ミュンヘン市庁舎

ネオゴシック調の美しい市庁舎。中を見学することもできます。ただ、やはり内装よりも外観が魅力で、かつ、目の前が有名なマリエン広場であるため、多くの観光客が外で記念撮影を行っていました。等身大のからくり人形が踊りだす「仕掛け時計」は、観光客が集まる要因となっています。



また、年に一度の「オクトーバーフェスト」が開催されており、ミュンヘン市庁舎周辺はかなりの観光客でした。



オクトーバーフェストは 1810 年から続く伝統行事で、開催期間中には世界中から 600 万人の来場者が見込まれているそうです。なので、この時期にミュンヘン市内にホテルを予約するのは、かなり難しいそう。ドイツ旅行を考えられる方はご注意ください。ちなみに、オクトーバーフェストの参加資格は、「民族的な文化」が含まれていれば問題はないそうで、ドイツ関連である必要は全くないとのこと。日本の文化で着物を着て参加するのも可能とか。



左写真はミュンヘン街並み。ミュンヘンでは景観を守るため、建物を壊さず再利用するそうで、古い建物が多い。ただ、地震等の災害が少ない地域であること。建物自体が石造りで頑強であることから、問題ないようです。

街灯は建物間にロープを張り、そこから吊るすという手法が用いられています。これも歴史的な景観を保つための一助に。

訪問日：2023.09.18

訪問先：フランクフルト（取引先商社の支社）

訪問目的：取引先商社との懇親



ここで、ミュンヘンからフランクフルトへの航空便チケットが、正しく予約できていないトラブルが。海外でのトラブルは言葉が通じないため、かなり焦ります。今回の視察メンバーは3人共全く英語ができません。中学生レベルの英語もままならないため、有人カウンターにてトラブル内容を伝えるにも一苦労でした。

海外の空港でトラブルが起きた際は、落ち着いて簡単な英単語を使い、有人カウンターに行きましょう。航空会社によっては日本語対応可能なスタッフも存在します。今回は日本語が話せるスタッフと電話でやり取りし、なんとか別便で同日中にフランクフルトへ到着。写真はフランクフルト中央駅

結果的に先方を6時間も待たすことになりご迷惑をおかけしましたが、ほっと一安心です。

ちなみに今回の件、おそらくですが航空会社ルフトハンザの予約担当が取り間違えたと思われます。

しかし、対応したスタッフの謝罪等は全くなく、申し訳なさの欠片もない…。思い返せば、ドイツ国内のタクシー運転手、ショップ店員、飲食店店員、航空会社スタッフ、ホテルスタッフ。皆、塩対応でした。

後からドイツ在住のガイドさんに確認したところ、サービス業スタッフとお客様は、あくまで「対等の関係」だそうで…。日本のようにへりくだる対応はしないとのこと。今回の件も会社の予約担当のミスで、チェックイン受付のミスではないため、受付の責任ではないというロジック。だから謝罪はしない。「会社 < 個人」。このスタイルがドイツのスタンダード。日本のように店内で困った顔をしていても、店員さんは全然助けてくれませんので、サービスが受けない、問題を解決したいのであれば、ハッキリと要求を伝えて自分で勝ち取りましょう。

訪問日：2023.09.19～20

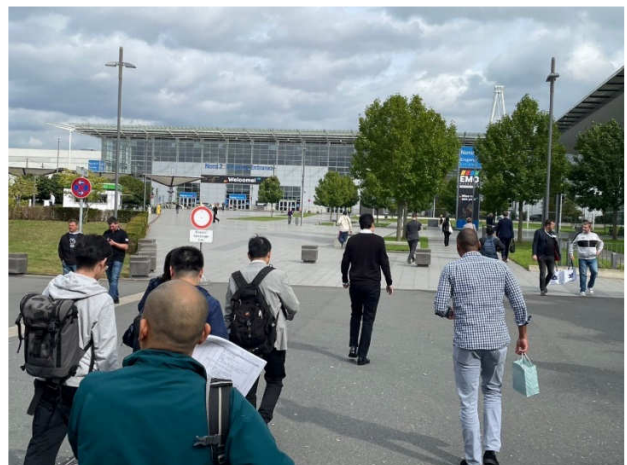
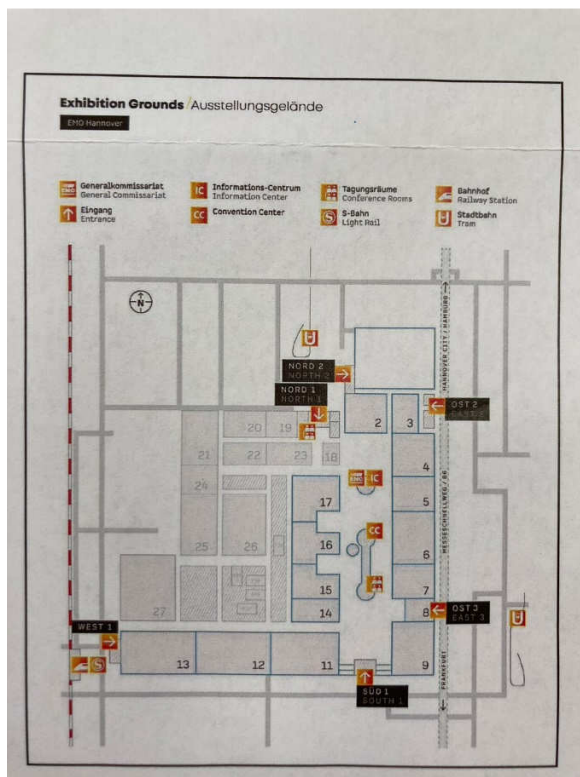
訪問先：ハノーファー（EMO）

訪問目的：EMO

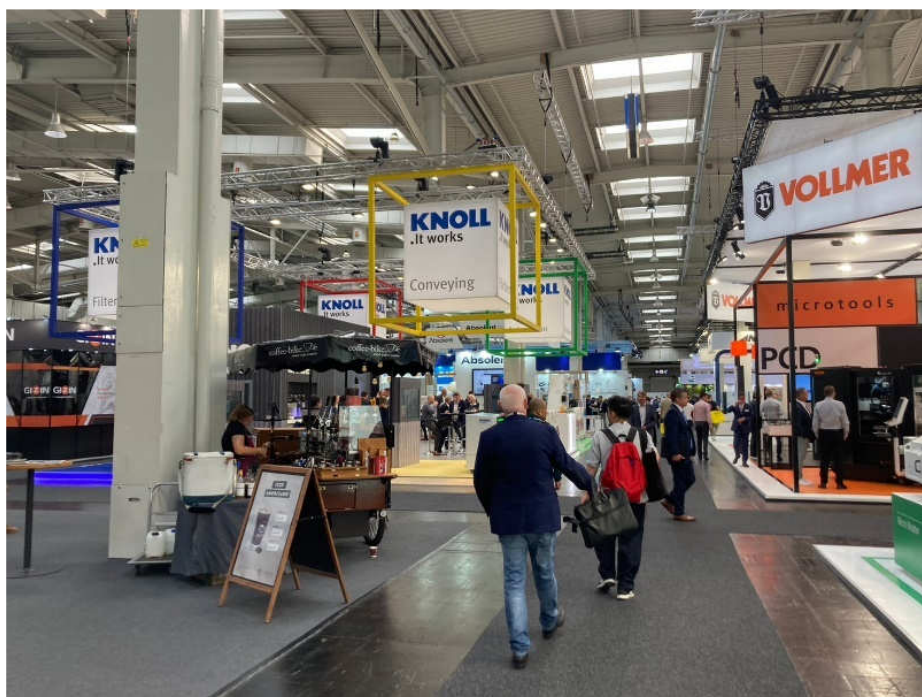


EMO

フランクフルトからハノーファーへの航空便は問題なく、無事ハノーファー到着。13時にガイドと合流し、タクシーでホテルに向かいチェックイン。路面電車を使い、14時半に会場前に到着。



EMO 到着。とにかく広い会場。日本の見本市等とは比べ物になりません。左写真の番号が打たれた会場一つで十分な大きさで、会場間を行き来するだけでかなりの距離を歩くことに。さすがに広すぎるため、会場間を行き来するバスも運行されています。



刃物を作るうえで欠かせない、「研磨」。そんな研磨を行うための研磨機の会場へまずは向かいました。写真左は研磨機の会場。とにかく広い。

弊社で使用している研磨機のメーカーである、「岡本工作機械製作所」さんのブースに立ち寄りました。ドイツ支社長 武貞氏にドイツでの近況をうかがうことに。「岡本工作機械製作所」さんでは、ドイツ EMO にかかる費用は縮小気味で、宣伝効果を考えると採算が合わないとのこと。ドイツ EMO も年々参加企業は減少傾向ではあるらしいですが、それでも国内の見本市に比べると、かなり大規模な見本市であることは間違いありません。



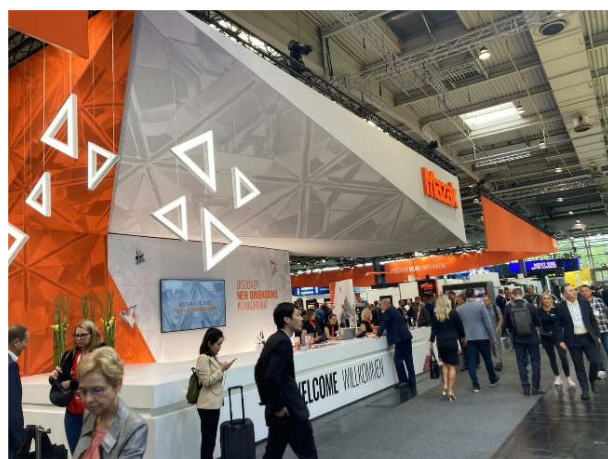
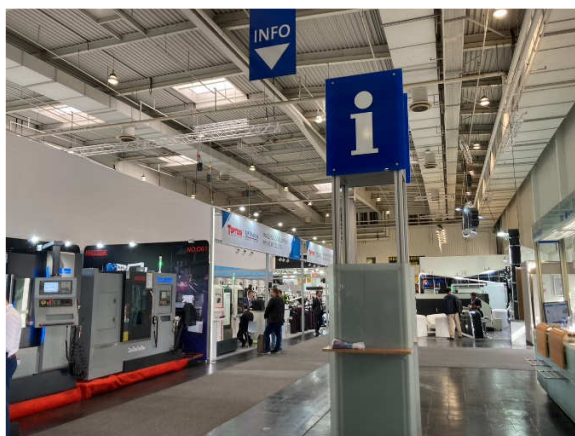
ということで 1 日目の EMO 見学は終了。
で、ドイツといえばビール。もちろん晩ご飯ではビールをいただきます。
写真のビールは「ビットブルガー」ドイツのビットブルグにある醸造所で作られているビールです。ドイツでは地名がそのままビールの名称に使われる事が多いようです。気になるお味のほうですがピルスナービールにしてはまろやか。全体的に丸い味わいで、苦味が少し舌に残る程度で、のどごし、キレが「〇」。
万人受けするビールではないでしょうか。



EMO 二日目。

この日もいい天気。今日は一日の予定はすべて EMO。世界 4 大見本市の一つを思う存分に体験したいかと思います。

とにかく広い EMO。行き当たりばったりで回っても、効率が悪く疲れるだけです。前日にホテルで打合せした通り、弊社に関係がある（使用している）機械を重点的に見ることに。写真右はマシニング会場。



そして日本のマシニング企業代表格である、「マザック」さん、「オークマ」さんは、さすがの巨大なブース。訪問者も多く、なかなか盛況のご様子。他、日本のマシニングメーカーや、各国のメーカーさんが数多く参加されていました。

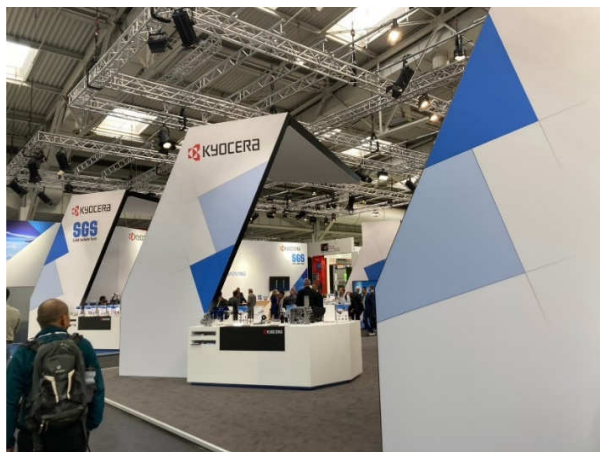




ツール（機械工具）会場へ。ここも広い…。



日本でも有名な機械工具のメーカー「京セラ」さん、「三菱マテリアル」さんが巨大なブースを展開されていました。ここまで日本企業のブースも多く見られたので、「モノづくり日本」もまだまだ捨てたものではないのでは？と思います。弊社も製造業。もっともっと頑張っていきたいところ。





そうこうしているうちにあっという間に夕方に。ドイツはこの時期は日照時間が長く、上記写真でも 18 時です。3 人共クタクタです。



はい、ということで EMO 二日目が無事終了。
会場が広い分、かなりの歩行距離になりました。
万歩計では約 20,000 歩。成人の平均的な歩幅 70cm で考えると、約 14km です。時間に換算すると約 3 時間半。
少しイメージができますでしょうか？

写真左はドイツのハノーファーの最大手醸造所「ギルデ」のピルスナービール。ニワトリのマークが特徴的です。
綺麗な黄金色で、味は伝統的なドイツのラガー。とはいえ、伝統的な濃いビールよりはさわやかな味わい。たくさん歩いた後では、ぐいぐい飲み進めてしまいます。ごちそうさまです。（合掌）

訪問日：2023.09.21～22

訪問先：ベルリン、フェルロポリス

訪問目的：ベルリン市内視察、フェルロポリス視察



ベルリン

ハノーファーからは ICE（高速鉄道）を使ってベルリンへ移動。写真左はその車内の写真。日本で言う新幹線のようなものですが、発車時間を 40 分遅れで出発。直前で到着ホームも変更され、なかなかの運用状況。ドイツの公共交通機関は遅れるのが当たり前だそうで、これまで移動手段であった、飛行機、路面電車、地下鉄、バスは全て遅れて出発しております。日本の交通機関は本当に優秀です。



車窓から見える風景はのどかな風景で、写真右は風力発電の風車。かなり巨大な風車です。高速道路からもよく見かけましたが、さすがエコ先進国と呼ばれるドイツ。



ベルリン中央駅に到着。
2006 年に開業した新しい駅だそうです。



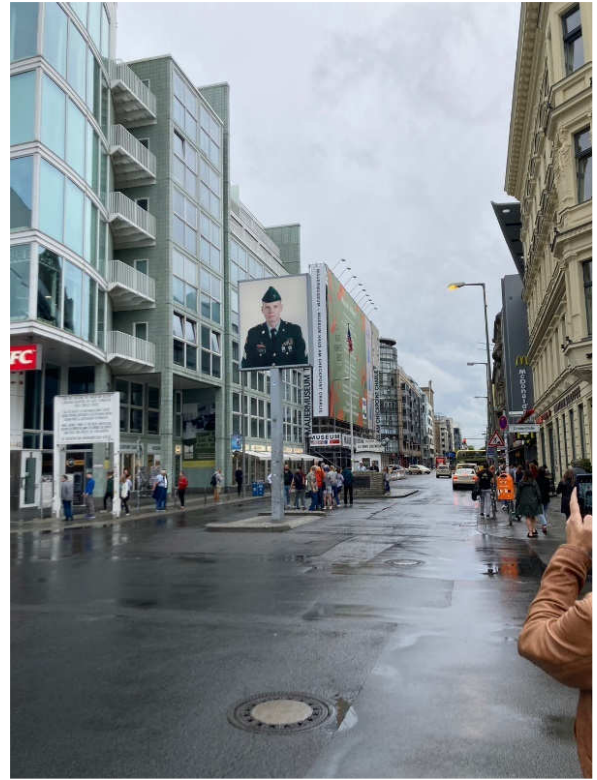


写真はベルリン市民のソウルフード。カレーヴルストとそのお店。焼いたソーセージの上にケチャップをかけ、さらにその上にカレー粉をまぶしただけの単純な料理ですが、それぞれのお店によってトマトソース、カレー粉の味が違うとのこと。写真は屋台で有名な「Curry36」。平日の昼間ですが人気のためか列ができております。「皮あり」と「皮なし」がありますが、「皮あり」がオススメです。

写真右はブランデンブルグ門。ベルリンのシンボルとされている門です。元々は「平和門」としての意味合いだったそうですが、ナポレオン戦争に勝利した際に戦勝と凱旋のシンボルに変わったそうです。門の上のヴィクトリア像は、以前のナポレオンとの戦争で負けた際に持ち去られていましたが、このナポレオン戦争時に勝利し、戻されたようです。写真では見えにくいですが、門の柱に 2023/9/17 に環境保護団体が抗議活動の一環で塗料を吹き付けた汚れが、今も残ったままです。



写真左はブランデンブルグ門を背にして右側前方にある「ホテル・アドロン」。5つ星ホテルで、著名人や各国要人が宿泊されるホテルです。マイケルジャクソンが、自分の子供を窓の外に放り出すジェスチャーをしたことで、世論に叩かれたことでも有名です。この近辺は列強の大使館なども並ぶ、ベルリンの中心地となっています。



西ドイツと東ドイツの境界線にあった検問所、「ポイントチャーリー」。写真左側が西ドイツ側。よって看板の人物はソ連人の検問官。写真右側が東ドイツ側。よって看板の人物はアメリカ人の検問官となっております。今は観光地化しており、ソビエト時代の軍帽が露店で販売されていたりします。



「ベルリンの壁」は現在では一部を残すだけのようで、写真左は有名な「兄弟のキス」と呼ばれる作品。東ドイツとソビエトの独裁者同士の蜜月を、「キス」という表現で皮肉めいた絵画と思っていましたが、実際にドイツ民主共和国の設立 30 周年を祝う行事の際に、レオニード・ブレジネフとエーリッヒ・ホーネッカーがキスを交わしたそうです。実際の映像も Google で調べると出てきます。

フェルロポリス

ベルリンとライプツヒの中間ぐらいに位置する、野外産業博物館です。人類史上最も巨大な自走式重機「バスケット・ホイール・エクスカーベーター」が展示されています。このすべてが自走式の重機であることが驚きです。現在はもちろん稼働していませんが、年式の異なるそれぞれのモデルを、自由に閲覧できます。また、そのうちの一台には乗り込むことができます。とにかく巨大な機械が好きな方にはたまらないかと…。



このフェルロポリス、左の地図を見てわかるようにグレンミナー湖に周りを囲まれた場所にあります。実はこの湖は人工の湖で、この博物館に展示されている自走式重機によって採掘された後、その削られた採掘場に水を貯めたもののなのです。「Oh my GOD!」

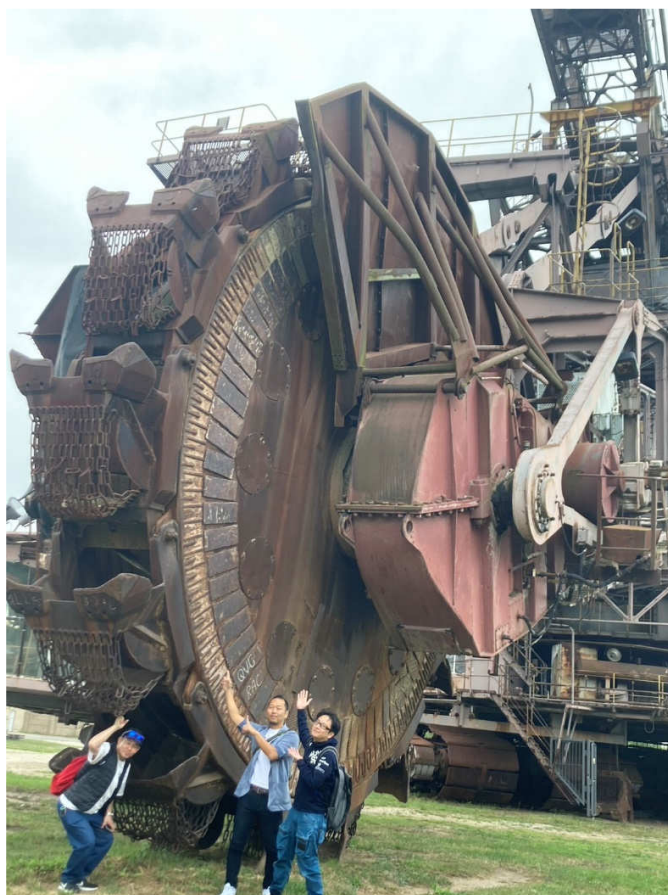




展示物の前には年代や重量、寸法等の説明プレートがあります。



写真は機械内部。機械心臓部である動力部分の仕様プレートを見てみると、出力 330kW と記載がありました。弊社研磨機は主軸出力を日本でも変更できる最大出力に変更しましたが、それでも 22kW。これほどの重機を動かすための出力は想像をはるかに超えます。



「ビッグホイール」の名の通り。このような巨大な重機で壁面を掘削していくという発想は、鉱業が盛んな工業都市として栄えていたからでしょうか。ただ、エネルギー転換の波が訪れ、鉱業が衰退することにより採算が合わなくなり、こういった巨大な重機は消えていくことに。



もはや産業機械には見えません。
 戦車のようなキャタピラが、兵器のような様相を醸し出しています。



写真上は、使用されていた道具や記録、写真などが展示されている建物です。鉱業が盛んなだけあって、炭鉱等の道具が多々見受けられます。あのような巨大な掘削機があっても、細かなところはやはり人間の手が必要だったのでしょう。それは今も変わらないのかもしれませんが。



まとめ

ということで、9/17～9/22 までのドイツ滞在期間に訪れた場所について、つらつらと紹介させていただきました。

今回は人生初の欧州、ドイツに訪問ということで、楽しみでもあり、緊張もありました。

実際に海外での鉄道、空港、サービス業の対応、建物の雰囲気を感じ、また機械のコンセプトを聞くと、

やはり日本とは根幹から考え方が違うものだと感じました。これも文化、国の成り立ちが違うからなのでしょう。

一度は日本を出て、外から日本を見てみないと、この考えには至らなかったと思います。

やはり海外を経験するというのは、いつもと違う国の文化や思想を直に感じとれる貴重な体験かと思います。

駄文ではありましたが、ここまで見ていただきましてまことにありがとうございます。最後になりましたが 1 つだけご紹介。

下記写真のビール、ドイツのスーパーやキオスクでよく見たビールなのですが、「レモンビール」という品物。

いろいろなメーカーからも発売されており人気があるのがうかがえます。試しに飲んでみるとかなりおいしい。

レモネードとビールを足して 2 で割ったような味です。見かけましたら是非飲んでみることをお勧めします。

